

何度か同じ事を書いておりますが、各地を視察してこの町に帰り着いた時、私達の町は豊かな住みよい素晴らしい町だと思います。九州や他県から移って来られた人達が、「この地は台風が来ない、雪が降らない、冬は暖かい、地震もない、山はなだらかで水がおいしい、魚も野菜も新鮮で美味しい！」と限りなく褒めてくれます。

今一つは基幹産業である君津製鐵所の存在であります。

好不況によって税収は異なりますが、50 億円から 80 億円くらいの大型の税収であります。

市の総予算凡そ 290 億円への寄与、極めて多大であります。大自然と製鐵所が極めてバランス良く共存して栄える町は全国に類例がないと思っております。

今その製鐵業界に大きな変化が起きております。世界の 66 カ国に大小凡そ 1 千か所の製鐵所が存在するだろうと言われ、そのうち 500 か所は中国であります。全世界の粗鋼生産量は 2008 年には凡そ 13 億屯、2009 年は 11 億屯と発表されています。

世界最大の中国の生産量は 2007 年に 5 億 7 千万屯、2009 年には 6 億 6 千万屯と増大し、更に 6 千万屯の生産計画に対して中国政府は過剰生産として中止命令を出したが、その浸透性は極めて難しいと伝えられております。

現在国内の粗鋼生産量 4 千万屯のインドも 10 年後には 2 億屯の粗鋼生産の見通しを発表しております。

また一方、韓国の「現代自動車」はすでに 400 万屯の自社高炉を稼働させ、来年には第 2 高炉を完成、既設の電気炉を併せると 2 千万屯自給生産能力を持つ様になり、世界の自動車業界への波及は・・・？かつてミタルの日本への進出が懸念された折、新日鐵とトヨタの垂直合併が噂されたこともありました。

こうした激しい鉄鋼業界の戦いに鳩山首相は CO₂ 25%削減を宣言されました。

ご存じと思いますが、鉄鋼生産とは鉄鉱石（焼結鉱）とコークスを高炉内で化学反応をさせて鉄鉱石内の O₂（酸素）とコークスの C（炭素）と化合させ銑鉄を取り出すのですから、CO₂ の削減は製鐵所にとっておおきな課題であり、これからの温暖化防止、環境保全のために課せられた重大な役目であります。

最先端の CO₂ 削減技術を持つ日本の鉄鋼業界にとってもこれ以上の削減は過大なコストによって競争力を阻害されかねない難問題のようではありますが、君津製鐵所を中心に鉄鋼業界では従来の生産工程に代えて水素を使って CO₂ 方式から H₂O 方式によって CO₂ を出さない製法等技術開発を進められて居る様であります。また、社会から発生した廃プラスチックや廃タイヤを資源として再利用しています。

2008 年に新日鐵の売上は凡そ 4 兆 8 千億円、営業利益 3 千 4 百億円、社員 5 万 2 千人、韓国のポスコは売上 3 兆 3 千億円、営業利益 5 千 7 百億円、社員 1 万 7 千人・・・対比してなぜ?! かと云えば、ポスコの最大のお得意先だった「現代自動車」が最大のライバルと変わったことに衝撃を受けると共に、来るべき将来に備えて更にコスト削減と収益性に取り組み、社員の意識改革の成果でもあったと言われます。是非、韓国に負けないロイヤリティを持ってもらいたいものです。

今、世界の大手企業も熾烈な戦いを致しております。

夢や希望を捨てないで下さい。

私達が夢を画けなければ後継者は生まれては来ないからであります。